

びわ湖 生き物ウォッチング

～「びわ湖って、○○だなあ。」と言える学習～

航海の特徴

びわ湖を中心とした自然愛護への感覚を育む環境学習

「びわ湖って（思っていた以上に）たくさん（数・種類）の生き物がいてすごいな。」
こんな実感を子どもにもたせたい。大げさでなくてもいい。2日間の限られた時間、限られた場所で自分の感じたびわ湖をはつきりともたせたい。

そのために、「学習課題が自分のものであるという意識、進んで課題追究をしようとする意欲」を大切にす。また、個々の学習を全体で共有できるようにもする。共有することで自分の学習を再確認でき、2日間のびわ湖を自分の言葉で語れるようになるだろうと考える。

具体的には「びわ湖環境学習」で「プランクトンを見つけ隊」・「水草を見つけ隊」・「水鳥を見つけ隊」と称し、選択学習の形態をとる。「自分が調べてみたいこと」「自分にできそうなこと」を選び、「自分にできるところまで」学習を進める。

このようにして、児童の「びわ湖を中心とした自然愛護の感覚」を育てていくための体験学習の効果的な取り組み方を追究しようとしたのが本航海である。

(1) 航海の航路・日程



<1日目>

- 10:00 綿帆島港発
出港見学（含水鳥観察）
開校式
- 12:45 白石展望（含水鳥観察）
- 13:55 長浜港着
- 14:00 「びわ湖環境学習」の
選択学習&長浜タウン
ウォーク
- 19:00 「湖の子」の夕べ

<2日目>

- 6:00 起床
- 6:30 朝のつどい
- 8:20 「びわ湖環境学習」の選択学習
カッター活動
- 11:20 長浜港発・出港見学
- 11:50 学習の振り返り&食事
- 13:20 沖島展望
- 13:50 「湖の子」掃除
- 14:40 南湖展望
- 15:00 閉校式
- 15:30 綿帆島港着、下船

(2) 展開事例

① 学習活動のねらい

自分の学習課題を追究し、また他者の学習も共有することで、「びわ湖って○○だなあ。」の○○にあてはまる自分なりの言葉を考える学習過程を通して、児童に「びわ湖を中心とした自然愛護の感覚」を育む。

② 学習の流れ

学校での事前学習（課題見つけ 課題づくり 意欲づけ）

1. びわ湖にいる生き物を知る。

◎びわ湖には様々な生き物がいることを知る。

びわ湖にはどんな生き物がいるのだろう。

2. 学習課題を決める。

◎自分が2日間のフローティングスクール中にできるだけたくさん見つけたい生き物を「プランクトン・水草・水鳥」の中から選択する。

◎選択した生き物について詳しく調べる。

びわ湖にはどれくらいの数や種類の生き物がいるのだろう。

フローティングスクールでの学習

学習隊	1～6班		7～20班	
	14:00～15:30 長浜タウンウォーク	15:40～16:30 選択学習	14:00～14:50 選択学習	15:00～16:30 長浜タウンウォーク
プランクトンを見つけ隊	1～5班	6～10班	11～15班	16～20班
	選択学習		選択学習	
水草を見つけ隊	8:20～ 8:55	カッター活動	湖岸スケッチ	
	8:55～ 9:30	湖岸スケッチ	カッター活動	
水鳥を見つけ隊	9:40～10:15	選択学習		カッター活動 湖岸スケッチ
	10:15～10:50	選択学習		湖岸スケッチ カッター活動

学校での事後学習（課題解決に向けて 調べる 行動する）

- ◎びわ湖や地域の環境に住んでいる他の生き物について調べる。
- ◎学校の近くでの生き物見つけなどの活動を含めたビデオレターを作成し、同時乗船校と交流する。

(3) 活動の様子

「びわ湖環境学習」

"プランクトンを見つけ隊"



"水草を見つけ隊"



"水鳥を見つけ隊"



一日目

選択学習



二日目



学習の振り返り(共有)

【児童の声】

- ・びわ湖ってきれいだなと思った。
- ・びわ湖ってたくさんの生き物があるんだなということがわかった。
- ・びわ湖には多くの生き物がいて、それぞれの方法ですんでいるんだなと感じた。
- ・びわ湖にはもっと他に何種類くらいの生き物があるのが調べてみたい。
- ・いろんな種類の鳥や植物がいて、びわ湖って意外にきれいだんだなと思った。
- ・びわ湖って自然がいっぱいの湖なんだなと感じた。
- ・びわ湖って自然が豊かなんだな、大切にしたいなと思った。

【指導者の声】

- ・選択学習を取り入れたのでローテーションを進める学習とは異なり、自分のめあてがはっきりし、学習に意欲的に取り組めた。
- ・例えば、水鳥を意識してびわ湖を眺めてみると、結構たくさんいるということにあらためて気づくことができた。プランクトンや水草でもまた他のものでもやはり同様で、要するに、めあてを明確に持つことで、びわ湖を見る目やびわ湖の感じ方に変化を生じさせることができる。

《指導のポイント》

- ・学習のめあてがどれだけ自分のものになっているかが大切である。選択した生き物について詳しく調べる学習段階で児童の意欲を手応えとして感じたい。また、学習課題に対する自分の予想を明確化させておきたい。
- ・子どもが学習の見通しをもつためにも、フローティングスクールで実際に自分はいつ、どのような方法で生き物ウォッチングをするのかを明確に確認しておきたい。

《児童の学びの実感をもとめて》

- ・児童の「学習実感」は、新しい知識を得たときや何かができるようになったときなどである。
- ・不意に得られた新しい知識と自分が意識する中で得られた新しい知識とでは、学びの実感に大きな差がある。
- ・めあて、予測、見通しを大切にすることで確かな学びの実感を得させたい。